で網を持ち出し、採集した。新鮮な♀であった。

本種は、原色日本蝶類図鑑（川副昭人・若林守男共著、1976年・保育社刊）P.270によれば、「暖地では通常年３回発生で、４月中旬～９月下旬に姿がみられる。10月に４化の現れることもある。」と記載されている。

また、原色日本蝶類生態図鑑Ⅳ（福田晴夫他共著、1984年・保育社刊）P.67～P.68では、各地の発生状況が記載されており、遅い採集例としては、長野県飯田市で11月９日、長崎県では11月７日となっている。従って、今回の採集は、11月25日であり、これらよりも遅い採集日であった。なお、本種の夏型は春型よりも、ひと回り小型であるが、採集した個体は夏型タイプの小型（開長34mm）であった。

〈採集データ〉

川西市見野字山形、25—XI—1990.　１♀　筆者採集。

ニシキキンカメムシ神戸市内に産す？

大　倉　正　文

昨年（1990年）12月の初め、神戸生物クラブ顧問の清水美重子氏から「神戸の灘区に住んでおられる方の家に入ってきたものだそうです。タマムシのような美しい虫ですが、何という名前でしょうか」というお手紙とともに１頭の昆虫が送られて来た。

早速包をあけてみると、甲虫の成虫とばかり思っていたのに幼虫で、それも私には門外のカメムシの幼虫であった。しかし、いかに門外漢でもこのように大きくて美しい幼虫はキンカメムシ類に違いないというくらいの見当はつく。

ところで、兵庫県下に分布するキンカメムシ類はオオキンカメムシ・アカスジキンカメムシ、それに高橋寿郎氏が本誌第18巻にくわしく書かれているニシキキンカメムシの３種類である。この中、オオキンカメムシは四国等の暖かい所で越冬する性質があり、渡りをすることで知られているので、幼虫が兵庫県に棲息するのは疑問がある。ニシキキンカメムシは高橋氏の報文を読むと、この近くでは1960年代に西宮市の尼子谷で見付かっているにすぎない。とすると、残るはアカスジキンカメムシであるので、アカスジキンカメムシの幼虫？ではなかろうかと思う旨のお返事を差上げておいた。

本年になり、高橋寿郎氏に現物を見ていただいたところ、アカスジキンカメムシの幼虫はもっとくすんだ色をしており、こんな美しい色の幼虫はニシキキンカメムシに違いないとのお話であった。

そのため、改めて清水氏にお電話をして、この幼虫を採集された楠田さん（ご婦人）の電話番号を調べていただき、直接お話を伺った結果は次のようであった。

採集された場所は東灘区岡本３丁目（甲南大学の東）で、マンションの４階の部屋へ1990年９月ころの夕方、窓から入りこんで来たのをつかまえたとのことであった。それにしても、よく４階まで這いあがったものである。

このあたりは閑静な住宅地で、すぐ近くまで六甲の山波が押し寄せており、近くを走る阪急電車の車窓から見ると、樹木もよく生い茂っている。何れしても、９～10月ころ一度調査する必要があるものと考える。

この標本は金緑色にかがやく美しい個体であるが、惜しいことに触角・肢などは郵送途上にほとんど破損してしまっている。

なお、この標本は現在、高橋氏が保管されている。

宝塚市清荒神のチョウ（追録７）

加　藤　信一郎

オオチャバネセセリは市街地には稀なチョウである。筆者は1982年６月、自宅裏で１♂を採集しているが（加藤、1982。きべりはむし10(2)）、その後の採品につき報告する。

オオチャバネセセリ Polytremis pellucida MURRAY

１♀、1—9—1988。自宅庭で採集。前翅長16mmと小型。前翅表後縁ならびに後翅表裏面の小白斑紋をほとんど欠く異常型である。

１♀、9—7—1991。自宅庭で採集。

なお、ナガサキアゲハは1981年５月当地で初見以来（加藤、1981。きべりはむし 9(2)、年々その数を増した後減少に転じ、ここ数年は全く見なくなった。もっとも拙宅から東南500mの小浜の松原氏宅ではこの３／４年引続き春夏を通して、庭内のナツミカンに飛来し、産卵・羽化を繰返しているのが確認されている（朝日新聞、18—5—1990）。